

## 優しさのカタチ

木古内町立木古内中学校3年 ながい 永井 さくあ 朔愛



あなたの周りにいじめはありますか？  
いじめをなくそう！

誰もが聞いたことのあるフレーズに、私は小学生の頃から悩んでいます。いじめとは、何でしょう。学生対象に行われている、いじめアンケートには「ない」としか書いたことはありません。

しかしある日、私はいじめの加害者となりました。プライベートで行われた勉強会で笑ってしまったことがいじめだと訴えられ、自宅へ連絡がいき、母と共に謝罪に行くことになりました。私は悪意があって笑ったわけではありませんでしたが、誰かにとってはいじめだったので。私が笑ったことで、誰かを傷つけたことは事実。

小学校では、男女混合で体育を行います。高学年になっていくと、男女の力の差が大きくなり、ボールにぶつかるだけで痣が出来ることもあります。ある男子は、男女関係なく全力でボールを当て、ある男子は女子に当てないように気を遣いました。しかし、全力で当てた男子は暴力「いじめ」だと主張され、当てないようにした男子も仲間外れにする「いじめ」と周囲に愚痴を洩らされたのです。いじめとはなんと抽象的なのでしょうか。

母は言いました。ただ、優しさのカタチが違うだけだと。男女関係なくボールを当てるのは、仲間外れにしないように平等で対等に扱ってあげている、仲間的な優しさ。女子にボールを当てないようにするのは、力の差を自覚しているからこそ大切にしてくれている、王子様的な優しさなのだ。

私はすっかり来ました。視点を変えるだけで一気に見方が変わったのです。しかしこれらは声に出し、対話することで解決する問題なのではないのでしょうか。いじめという言葉を手易に使うようになりましたが、対話がないからこそ助長されている面もあるのかもしれない。

2007年に「空気を読む」という言葉が流行しました。今現在、空気を読むという風潮は社会に根付いていると言えます。人の顔色を伺い、言いたい事は言えず、コミュニケーション能力を低下させている一因なのではないでしょ

うか。想いを伝え、傷つけ、傷つけられる事があつたら謝って、相手を思いやる。その行為が欠如しているのです。空気を読むという社会の風潮を変えることは、難しいでしょう。しかし、伝えることで学び、他者も自身も大切にすることがいじめ減少に繋がっていくのだと思います。

海外では、いじめは起きることが前提で、抑止を目的として国が動いています。ある国では、加害者や家族にカウンセリングを受けさせるプログラムがあるそうです。精神的に不安定なのか、家庭環境の為なのか、医療的な事なのか、加害者の原因を探ります。他にも加害者に罰則が課せられる国もあるそうです。逆に日本では、外国のような制度がないので、いじめがないことを前提として、問題が起きてから事実確認に重きをおいて、ケアをすることを後回しにしている様に感じます。いじめのボーダーラインをはっきりしない以上、撲滅するというのは不可能で、いじめがおこることを前提とする国を参考にして、対策や考え方を取り入れて行くべきではないでしょうか。

また、近年では技術が進歩し、SNSやAIが身近になりつつあります。チャットGPTなどAIと対話を楽しむシステムが世界で活用されるようになってきていることはご存じですか？今後さらに人と人が向き合う機会が減り、技術進歩と反比例しコミュニケーション能力が低下していくことが懸念されます。

いじめ被害でとても苦しんでいる人もいるでしょう。ニュースを見ていると、苦しんで悩んで、耐えられない段階の人達がいることを知ります。そのケアは、今の私には出来ないかもしれませんが。しかし、見方を変えて「優しさのカタチ」が違うことを他の人に伝えてはいけるのです。言葉にすること。対話し人と人が向き合うことが大切だと思います。

見方の違いで「いじめ」に苦しんでいる人であれば、コミュニケーションによって解決できるかもしれません。「優しさのカタチ」の違いに向き合う事が、いじめ減少に繋がる第一歩になると信じています。現在、私たちに出来ることから始めていきましょう。これからの未来が、ほんの少し温かく優しいものであるように。